

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



満開のアセビ

(ツツジ科・「馬酔木」と書く 馬が葉を食べると酔った
ような状態になり動けなくなるということから付いた
名前とされる 4月15日 大教会神苑で撮影)

教祖130年祭に向かって

三年千日 さあ！ おたすけ
祈る 動く つなぐ

立教177年
4月号



真摯に受講される

育成部(吉岡壽部長)では3月21日、大教会3月月次祭後、会議室で「よふぼく勉強会」を開催、46人が参加した。テーマは「教祖のお話し」。講師は大教会奥様。
自らの体験を通して懇切に話された。

よふぼく勉強会開催
テーマは「教祖のお話し」
3月月次祭後
育成部

3月21日(金)、春休みにはまだ少し早いのですが、祝日という事で大教会では祭典の後、「テッチャンシアター」を開催させて頂きました。「テッチャンシアター」はだいたい子供達の：又育成会員の皆様の中でも定着してきつつあるのでしようか？
今回は少年会員約60名弱、育成会員約40名たくさんの人たちが神殿に集まって下さいました。今回の担当者は、少年会委員の掛谷先生。3つほどゲームをしました。
一つ目は、文章作りです。子供達の思いつく言葉をつなぎ合わせて：おもしろ

「テッチャン
シアター」開催
3月月次祭後
少年会

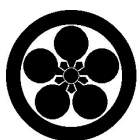
引き続き、テーマについての質疑応答が行われ有意義に終えた。
今回は7月月次祭後、テーマは「親孝心」。講師は高木孝子湯田原分教会長夫人。

楽しい文章ができあがりました。二つ目は、ジェスチャーに合わせてかけ声をかけます。先生の動きをよく見て、大きな声で時には外れたような言葉を、みんな思い思いに言いました。三つ目は、「あなたたちは、いつまで息を止められますか？」子供達は、段々赤い顔になりますから息を止めてがんばりました。
そこでもう一つ、「じゃあ心臓は止められますか？」ここからは少し神様のお話です。自分の体なのに自由にできない体(かしのもの・かりもの)。そして心だけ



熱心に聞き入る少年会員

<実行目標>人のたすかりを願ひましよう



おたすけ・お願いカード 集計：30,720枚

平成26年2月21日～3月20日

累計：221,249枚



は自由に使えますが、大切に人のために使わせてもらえたらいいですねとお話くださいました。この後、おさがりのお菓子を頂いて解散。

何気ない日常生活の一コマの中にも神様につながるお話はいっぱいあります。自然に、でも伝えなければいけない事は、キチンと子供達に伝えていく。育成する側としての思いをこれからも大切にしていきたいと思っと思っています。

皆さん又大教会でお待ちしています。来て下さいね！(少年会委員 丸山哲子)



大教会長様のお話し



お弁当のクッキングコンテストへ



練習の成果をお供え

「道の仲間と過ごす春」

春の学生おぢばがえり

本部中庭で

学生会

春の学生おぢばがえりが、3月28日に親里で開催され、本部中庭で行われた式典には4500人が参集した。今回のテーマは、「世界の友にをやの思いを―喜び勇んだ姿で」。笠岡につながる学生も、岡山・広島・島根・鳥取・兵庫など各教区から32名が参加した。式典で壇上に立たれた真柱様は、おやさまのひながたについて話された上で、

日々の実践の大切さを強調された。

式典後は、各詰所で「直属アワー」となり、笠岡では、大教会長様のお話が続いて、「クッキングコンテスト」が開かれた。料理のテーマは「お弁当」。学生らは、班ごとに食材の買出し、調理、ネイルアート・ふきん縫い・一輪差し(調理以外の審査項目)の係に分かれて、作業を進めた。どの班も、班員同士が積極的に会話をしながら、学校・教区を超えて、同じ笠岡学生会につながる者同士の親睦を深めた。

また、夜には後夜祭「春まつり」が、東西泉水プール前広場で開催され、多くの模擬店が出され賑わった。

「春の鼓笛合宿」行う

3・30―4・1 大教会で

つ 隊 む 笛 岡 鼓 み 笠

毎年恒例の春の鼓笛合同合宿が、3月30日から4月1日まで大教会で行われ、直轄・福山・高屋・島根の各隊より98人(うち隊員68人・係員30人)が参加した。練習は、『教祖130年祭の歌』と、こどもおぢばがえりのテーマソングを中心に、各パート毎に分かれて行われた。2日目には、パート毎に練習の成果を発表するコンテストが開かれ、隊

員は緊張しながらも一生懸命演奏・演技を行った。
また、夜のお楽しみ行事では、室内オリンピック
クが開催され、隊員・係員一緒になって和やかな
ひとときを過ごした。

参加者は、合宿を通して演奏・演技の技術を上
げるとともに、同じ笠岡むつみ鼓笛隊につながる
者同士の絆を深めた。

尚、4月1日のおつとめまなび総会終了後、神
殿にてお供演奏を行った。

おつとめまなび総会開催

4・1 大教会で

少年会

少年会笠岡団(武内正美団長)は4月1日、大教
会でおつとめまなび総会を開催、475人(受付数、
少年会員・285人、育成会員・190人)が参加しました。

毎年の春の大きな少年会行事「おつとめまなび
総会」は、子供に対しておつとめと真剣に向き合
える大切な機会です。今年も一生懸命に練習を重
ねてこの日を迎えてくれた少年会員がたくさんお
られたと思います。小さい少年会員がつとめるお
てふり、鳴り物には陰で練習を指導した大人と子
供の関係を思うと、たいへん感動を覚えました。
また、恒例になりつつある模擬店では、多くの



真剣な座りづとめまなび

ひのきしん者のご協力を得てフライドポテト、フ
ランクフルト、コロッケ、スイーツ、ジュース&
アイス、カレーと豊富なメニューを揃え、全て食
べ尽くすと満腹感がMAXになる内容でした。続
いて、ステージショーでは美人(美装)コンテスト、
各ブロック対抗のゲーム、高屋美少女隊「チビッ
ト」のダンス、男子女装隊の「AKB48」のもの
まねショーなど大変盛り上がり、最後に福引きを
してお楽しみ行事を締めくくりました。



バルーンアートに夢中の少年会員

将来、教会のおつとめを勤めるよふぼくに繋
がっていただけるよう楽しみの多い総会をめざし
て委員一同努力させていただきます。どうぞ、お
つとめに参加されない少年会員にも春休みには大
教会で楽しい行事があることを伝えて下さり、さ
らに多くの参加者が増え楽しみが広がることを心
よりお願い申し上げます。

(笠岡団副団長 藤井正仁)

有志ひのきしん隊出動

3教会に

青年会

青年会(上原明勇委員長)有志ひのきしん隊は3月7日、甲井分教会(広島県世羅郡)に6人出動し、薪の整理・運搬などを行った。16日は八尋分教会(広島県福山市)へ9人出動。同教会は3月23日に開催された「ようぼくの集い」の会場のため、教会の敷地に面した竹の伐採などを行った。4月7日は上川邊分教会(広島県尾道市)に5人出動。教会敷地内の小屋解体などを行った。

温故知新

(一旦終了)

大分長い間、連載させて頂いたが、この度昭和四十六年以降の大教会史年表がだんだんと出上来がってきたので、しばらくその方を掲載させて頂きたいと思えます。二年前、大教会史編纂委員会を立ち上げて、役員事歴の収集、教会写真の点検と収集、また部内教会史の編纂などに携わってきた編纂委員お互いですが、一番根本となる大教会史年表の体裁がかなり整ってきたように思います。昭和四十六年以降の年表は



3月7日 甲井分教会



3月16日 八尋分教会



4月7日 上川邊分教会

今後の大教会行事開催、また大教会創立百三十年に向けて、創立八十周年以降の歩みを概略でも頭に入れておく事は喫緊に必要と思えます。そういう上から、掲載に踏み切らせて頂く事にしました。

今、私たちは教祖百三十年祭の三年千日活動の中にあるのですが、本来ならば年祭活動に入れば、その一年目から初席者、おさづけの拝戴者、また教人登録者、修養科生などが急増するのが、過去の年祭活動の状況でした。そういう点では、大分教内事情が様変わりしてきているのかと思わせて頂きます。八十年祭後の歩みを

年表でざっと眺めてみて、今後の布教推進への糧にして頂ければと思います。年表でありますが、大教会行事、大教会並びに部内教会の事情願書、大教会役員登用、などで構成しております。各年の終わりに振り返りの文章を入れておきます。五十年くらい後に、大教会史を書き続ける上に役立つと思われると思っております。私に出来る最後の仕事だと思っております。以下、次号から「稿案・笠岡大教会史年表 昭和四十七年より」のタイトルで「かさおか」誌の最後ページに分載させて頂きます。

(前史料部長)



世界平和を祈願してのよろづよ八首

恒例の「広島公園

にをいがけデー」実施

3.24

海外部

桜のつぼみも一気に膨らんだ3月24日、好天の中、第5回を迎えた海外部主催広島平和公園での外国語パンフレット配布が行われました。まず参

加者一同おぢばに向かい拝をし、世界平和を願うよろづよ八首を踊らせて貰いました。参加者は6名。英文と中国語のパンフレットを手に平和公園の中、周辺を一時間程歩かせて貰いました。天気も良くツアーシーズンの為か、今迄に増して多くの海外からの旅行者で賑わっていたように思います。スウェーデン、アメリカ、スペイン、インド、スイス、トルコ、オーストラリア、フィンランド、イギリス、スコットランド、カナダ、オーストリア、台湾：など、声を掛けさせて頂いた方の中から出てきた国の名前は様々で、英語でも通じない時はとにかくパンフレットを渡し笑顔で挨拶！ツアー途中、京都奈良に行かれた時には地図を参考にして人類のふるさと・おぢばに行ってみると言葉を添えて手渡すと、中には熱心にパンフレットを読み質問してくれる人もありました。

花粉症でボーとした頭と心を引き締めて勇気を出して声を掛ける私の横に、今年小学校を卒業した娘も参加させて貰いました。恥をかいてもOK！勇気を出して一歩進む事に意味がある。おやさまがいつも手を引いて前を歩いて下さっているといつか娘にも感じてもらえたらと願いました。一時間程でしたが、みんな64部のパンフレットを手渡しさせて貰えました。数字や成果はともかくとして自分が動けた事に喜びを感じられた一日でした。(海外部員 上原 千枝子)

<布教部>

○本部食堂ひのきしん

期間 5月1日(木)～15日(木)

割当 高屋ブロック

<少年会>

○縦の伝道講習会

日時 5月21日祭典講話として

講師 土佐剛直先生(少年会本部委員・撫養大教会長)

<その他>

○こどもおぢばがえり期間中の模擬店

開催日 7月27日・29日・31日、8月2日

今こそ 教祖の右翼として邁進しよう!!



神殿前で記念撮影、皆さんさわやかですよね。写って無い人は何処に……

三月一八日、島根分教会の祭典終了後、門脇元教会長を先頭に、部内会長・お勤め奉仕者が一斉に「神名流し」に教会周辺町内に出掛けた。この考えは、年明けの祭典前夜に部内直轄会長さん達が「松江駅前」より市内へ「神名流し」したのがきっかけとなり、年祭のその日まで続けると門脇会長は勇んでおられます。写真は教会に戻り、達成感で、さわやかな面持ちの先生方をご覧ください。当日は、霧雨にけむる町内で教旗を先頭に、拍子木・みかぐら笛を従えて約二十数人が列をなし、昼食前とは言え「よろづよ八首」を腹から声を出して謳歌して回りました。

笠岡大教会長様から、二年目の活動方針を、祈る！
 「おたすけ・お願いカード」を続けるようにと、動く！
 「おさづけの取次」を、全教会で毎日励行するようにと、お示しく下さいました。その経緯から、島根分では、部内二〇箇所小型の白ボードを配布し、おたすけを取次いだ数を赤マーカーで記載し合計を祭典報告書に。更には、「神名流し」をプラス思考で活動を提唱し実施されています。筆者も参加して、使命感と達成感で心が軽くなり、事後の昼食の美味しかった事(笑)を喜びとして、次月も参加させて頂く考えております、しかし何故か？今回は男性ばかりでした。みなさん御苦勞様でした。

(編集掛・西村彦一)

別席・伏込みひのきしん団参

平成26年5月25日(日)

おつとめ/12:00

東礼拝場(定時のおつとめに合わせて)

ひのきしん/13:00

東左二棟(別席場)前広場

記念行事/14:00

天理大学4F講堂

上映会

解散/15:30

～上映タイトル～

祈り～サムシンググレートとの対話～
世界は祈りでひとつになる・・・。



主演 村上和雄 筑波大学名誉教授
(典日分教会よふぼく)

太古から捧げられてきた「祈り」。いま、そこに科学のメスが入ろうとしている一。 遺伝子学の世界的権威村上和雄氏が、世界の科学者らと共に、祈りをはじめとする“心の研究”の最先端に迫る。

立教百七十七年 三月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり				おつとめ			地方	役割 区分	講話	祭主		扨者			
									門脇	田中	大教会	上原	岡本	大教会	横山				岡崎	中村	三島	菅尾	大教会	田中
今川	佐藤	虫明	岡崎	河原	三島	森本	菅尾	高木	門脇	田中	大教会	上原	岡本	大教会	横山	岡崎	中村	坐り勤	三島	渉	大教会	長様	菅尾	正治
佐智子	香苗	好美	輝彦	節喜	島涉	本忠	尾正	木昭	郁子	ますみ	奥様	繁道	久善	会長	逸郎	真一	邦義							
谷内	岡崎	森本	山野	上原	中村	山田	赤木	虫明	門脇	内海	上原	田中	門脇	中村	吉岡	杉原	吉岡							
美知子	豊子	富美子	弘実	道浩	村道	敏教	素志	立生	加津	安子	順子	隆之	元教	剛	誠一郎	博之	壽	前半	五月講話	縦の伝道講習会	赤木	素志	内海	史郎
中村	高木	三島	浅野	森本	渡邊	内海	武内	佐藤	横山	菅尾	武内	上原	岡崎	岡崎	田林	中島	佐藤							
初美	孝子	照美	明教	忠善	隆夫	史郎	清明	真孝	小智	一美	正美	志郎	真一	和夫	久嗣	誠治	道孝							

立教百七十七年 春季霊祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり				おつとめ			地方	役割 区分	講話	祭主		扨者			
									門脇	田中	大教会	上原	岡本	大教会	内海				三島	中村	三島	岡崎	大教会	杉原
佐藤	内海	森本	上原	山野	渡邊	虫明	田中	中島	上原	田中	大教会	上原	岡本	大教会	内海	三島	中村	前半	渉	大教会	長様	菅尾	正治	
香苗	安子	富美子	志郎	弘実	隆夫	立生	隆之	誠治	順子	ますみ	奥様	繁道	久善	会長	史郎	渉	剛							
谷内	岡崎	森本	山野	上原	中村	山田	赤木	虫明	門脇	内海	上原	田中	門脇	中村	吉岡	杉原	吉岡							
美知子	孝子	照美	明教	忠善	隆夫	史郎	清明	真孝	加津	安子	順子	隆之	元教	剛	誠一郎	博之	壽	後半	五月講話	縦の伝道講習会	赤木	素志	内海	史郎
尾一	美知子	正子	德行	睦浩	田一	弘教	正輝	中垂	上原	門脇	岡崎	武内	豊田	三代	桑本	丸山	掛谷							
美	知子	子	行	浩	弘	教	輝	次	加津	子	美	哉	行	信行	光則	正人	宣和							

三 月 月 次 祭 祭 文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には「人間が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたい」との思召のままに寒さ厳しかった日々も温みと寒さを繰り返しながら日毎に温みを増し梅の花が咲き鶯も声高らかに唱い春はもうそこまで来ているよと告げているようで何か心まで温かくなるような季節をお与え下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は日々現れてくる子供かわいい一条の親心による御守護の数々に一喜一憂しつつ朝夕に御礼申し上げますと共に時句の御用も相まつて身近な所からたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は此の笠岡大教会の御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 日頃の喜び感謝の心とたすけ心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて三月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には心を同じくする者が今日の日を楽しみに寄り集い 日頃の御高恩に改めてお礼申し上げると共に三万七百二十枚のおたすけお願いカードに込められたたすけ心を込めてお歌を唱和する真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて年祭活動二年目の今年 一月の直轄巡教 二月三月の部内巡教と無事勤めさせて頂き全教会挙げて二年目の成人目標の実践に歩み出す事が出来ました歩み出しは僅かでも親に喜んで頂けるよう一年かけて確かなものにして行く所存でございます 又いよくようぼくの集いが始まりましたすでに参加した者もありますが 全ようぼく・信者の参加目指して互いに誘い合わせて参加させて頂き年祭活動の糧にさせて頂く所存でございます 更には又年度替わりに当たり 学生春のおちば帰りや少年会おつとめ学び総会等が開催されますので 子供達に参加を促し道の後継者育成の上にも力を注いで行く所存でございます

何卒親神様には 年祭活動二年目に当たり昨年以上の成人をすべく 成人目標を基に精一杯たすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に更なる自由の御守護を賜り 真実の親を知り 一列兄弟の理に目覚めたすけ合う人が弥増してお望み下さる陽気ぐらしの世の状に一日も早くお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

春季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます 本席様の神霊 初代真柱様並に奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代會長上原伊助大人光刀自の神霊 三代會長上原繁雄大人くに多刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人朝子刀自せい子刀自の神霊 歴代会長と共に多年に亘り御苦勞下され笠岡の道の礎となられた役員 部内教會長 教人よふぼく信者の神霊 又本日新たにお鎮まり下さいました阪本末子刀自 西村道榮刀自の神霊 諸々の神霊の前に 會長上原理一 慎んで申し上げます

祖霊様方には親神様に夫々のいんねんを見定められ旬を得て教祖に引き寄せられて以後 難儀不自由の中も心倒すどころか むしろいんねん納消になるとばかりに喜び勇んでたすけ一条の真実をおぢばへとお運び下さいましたお陰により 今日結構なお道の姿をお見せ頂いております もちろん第一には親神様 教祖の御守護お導きの賜である事は申すまでもありません 私共は親々の意思を受け継ぎ御用の上に勤め励ませて頂いておりますが 「一代は一代の苦勞 二代は二代の苦勞」とお聞かせ頂くように 先達と同じ苦勞は出来ませんが御恩報じの思いはしっかりと受け継ぎ 日々朝に夕にと御礼申し上げつたすけ一条に励ませて頂いております

その中でも本日は春の霊祭を執り行う定めの日柄でございますので 御前に海川山野の種々の物を供えて有りし日の面影を偲び御遺徳を称えつつ 只今は親神様の御前にて陽気に明るく勇んでてをどりをつとめさせて頂きました 御前に寄り集う皆の真実の状を御覧下さいまして祖霊様方にも御心お休め下さいますようお願い申し上げます

さて教祖百三十年祭に向け三年千日と仕切つて成人の歩みを進めるべく「さあおたすけ」を合言葉に「祈る・動く・つなぐ」を実践項目として成人の歩みを進めておりますが 昨年は日々のたすけ心の涵養に重きを置いてつとめさせて頂きましたが 二年目の今年は積み重ねの年としておさづけ取次やにいがけの実践につとめさせて頂くべく 一月は直轄教会へ二月三月は部内教会へと巡教させて頂き皆一つ心になって成人の道を歩み始めたところでございますので

何卒祖霊様方には御心安らかにお見守り下さいましておつとめ奉仕人増員が果たせますようお願い添えの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

第878期修養科募集要項

*修養科期間

立教177年6月1日～8月27日

*教 養 掛

3ヶ月間	上 原 浩	(大教会准役員)
1ヶ月目	吉 岡 孝彦	(芦品分教会長)
2ヶ月目	桑 本 光則	(上吉野分教会長)
3ヶ月目	渡 邊 隆夫	(神昭分教会長)

*募集要項

- ・志願者は、6月末日現在で満17歳以上で、必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・5月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、8月29日午前10時に解散。

こころの詩

笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていましてので転載させていただきます。おめでとうございませう。

▼天理教道友社発行『天理時報』より転載

▽3月30日付「時報俳壇」

・芦品分教会教人 金谷眞佐代さん

おだやかやおぢばの梅の咲き初はむる

▼養徳社発行『陽気』誌四月号、「道柳」より転載。今回の課題は「決」。

▽佳 詠

・東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

意を決し飛び出し行くやおさづけに

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

大教会だより

◎直属ひのきしん特別隊

自	立教177年4月11日
至	立教177年4月13日
東	城 横 山 逸 郎
自	立教177年4月13日
至	立教177年4月16日
久	松 中 村 剛 史
自	立教177年4月16日

※お詫びと訂正

本年3月21日発行の『かさおか 第53巻第3号』2ページ「婦人会 委員・直轄委員長研修会 開催」の記事に添付された写真に「声高らかに神名流し」というネームが振られておりましたが、「2月3日に行われた婦人会初例会では、2班に分か

至 立教177年4月20日
神 邊 小 坂 静 宏

れ神名流しを行つた」に改めます。

読者の皆様ならびに関係者の皆様

にご迷惑をお掛けしましたことをお

詫びするとともに、ここに訂正させ

て頂きます。

また、7ページに掲載の「立教177

年定期巡教表」の内、左記2件が

変更になりました。

・福 春 3月5日

笹尾正治 ↓ 三島 涉

・稲富士 岡崎和夫

2月15日 ↓ 4月15日



桜の開花とともに入学、就職など新しい生活もスタートする。

今年4月、孫3人が保育所に入所

した。3歳が2人、8ヶ月が1人。

連日、泣き別れの日が続き、親離れ、

また見送る子離れが大変だ。

教会の食堂の壁に4人の子どもの達

の集合写真が数枚掛っている。現在

の教会に赴任以来、毎年、正月に玄

関先で撮った物だ。ハッピーの大きさが時の移りを物語る。

写真を見ながら、この子達が結婚

して、そして子どもが出来て——と

夢を膨らませたものだ。

お陰で皆、結婚してそれぞれ子ど

もをお与え頂いた。今年はおお人数

での写真となった。

子どもが育たない家のいんねんを

自覚し入信。田地田畑を売り払い、

教会へ住み込んだ我家の信仰の初

代。そして二代、三代のふせ込み。

それが現在、結構な姿をお見せ頂い

ているものと確信する。

年祭活動も早や2年目を迎え、教

内それぞれの持場、立場で目標を定

めてつとめられていると思う。子ど

も達をはじめ、授った孫達も必ず教

祖にお喜び頂ける「よふぼく」に育

てさせて頂くことも、私にとつての

年祭活動のひとつだと思う。

「こら爺さん！孫の顔見てにや

くばかりしとつたらいけんぞー！

しつかりとやることをやれー！」

どこからか、こんな声が聞こえて

くる気がする。空耳かな？ (よ)